

地域包括医療病棟① 病棟のイメージ

第14回新たな地域医療構想等に関する検討会

参考

令和6年12月6日

資料1

背景

- 高齢者の人口増加に伴い、**高齢者の救急搬送者数が増加**し、中でも**軽症・中等症が増加**している。
- 急性期病棟に入院した高齢者の一部は、**急性期の治療を受けている間に離床が進まず、ADLが低下し、急性期から回復期に転院**することになり、**在宅復帰が遅くなるケース**があることが報告されている。
- 高齢者の入院患者においては、医療資源投入量の少ない傾向にある誤嚥性肺炎や尿路感染といった疾患が多い。
(高度急性期を担う病院とは医療資源投入量が**ミスマッチとなる可能性**)
- 誤嚥性肺炎患者に対し**早期にリハビリテーション**を実施することは、**死亡率の低下とADLの改善**につながることを示されている
- 入院時、高齢患者の一定割合が**低栄養リスク状態又は低栄養**である。また、**高齢入院患者の栄養状態不良と生命予後不良は関連**がみられる。

地域包括医療病棟における医療サービスのイメージ



救急患者を受け入れる体制を整備



一定の医療資源を投入し、急性期を速やかに離脱



早期の退院に向け、リハビリ、栄養管理等を提供



退院に向けた支援
適切な意思決定支援



早期の在宅復帰
在宅医療、介護との連携



10対1の看護配置に加えて、療法士、管理栄養士、看護補助者(介護福祉士含む)による高齢者医療に必要な多職種配置

包括的に提供

病床機能区分の名称について

【前回の議論について】

- 高齢者等の急性期患者について治療と入院早期からのリハビリテーション等を行い、早期の在宅復帰を目的とした治し支える医療を提供する機能及びこれまでの【回復期機能】について、新たな名称を議論している。
- 前回の検討会においては、【包括期機能】等の複数の案が提案されたほか、まだなじみの少ない概念であり、いずれの名称になるにせよ、今後丁寧な説明と周知が必要との議論があった。

【提案があった名称】

包括期機能  包括期機能（急性増悪～在宅復帰等）

包括期機能  包括期機能（入院～在宅復帰等）

回復サポート期機能

地域包括・リハビリテーション機能